

標津町立 川北小学校

地区会議時の思い

- 自分の殻を破って、心から本音の交流がしてみたい。



取組の概要

本会議を受け、11月下旬に「なかよしツリー」という活動を児童会事務局で企画して実施した。

これは、「学年をこえて仲よくなること」を目的とした活動で、「もらった人が嬉しくなる言葉・お礼・はげましの言葉」などのメッセージを書いてポストに入れると、校内の掲示板に貼った大きな木にそのメッセージを貼るという取組である。

メッセージを贈る相手は、学年の枠を超えてよいこと、また、特定の児童に偏らないことなどを配慮した。

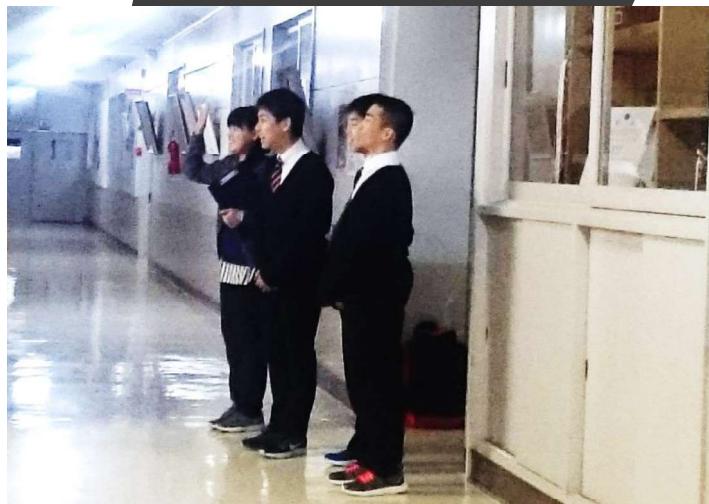
結果や成果 今後の抱負 感想など

普段言葉にしては恥ずかしくて言えない気持ちや思いを文面に起こすことで、改めて相手のよさに気付いたり、相手の気持ちを再認識できた。また、この取組は学年の枠を越えて思いを書くので、日ごろの縦割り清掃での頑張りや行事での印象的な場面など、自分たちの日常生活の振り返りにもつながった。いじめや不登校がゼロの学校とするために、これらの取組を今後も継続したい。

別海町立 上春別中学校

地区会議時の思い

- 互いを尊重し合える学校や地域をつくりたい。
- 根室管内「行動宣言」を踏まえ、まずは、校内の交流を増やすための「あいさつ運動」に取り組みたい。



取組の概要

- 【10月】…①生徒会執行部は、生徒間の交流を増やし、より一層校内を明るい雰囲気にするよう、「『あいさつ運動』の定期的な実施」を計画した。
②生徒総会における質疑応答を通して、全校生徒が「あいさつ運動」の目的を理解した。
- 【11月以降】…定期的に、朝と帰りの2回、生徒玄関ホールにおいて、生徒会執行部の生徒と登下校する生徒が、挨拶を交わした。

結果や成果 今後の抱負 感想など

- 生徒総会において「あいさつ運動」の目的の浸透に努めしたことにより、互いが臆することなく、爽やかな挨拶を交わすようになるとともに、校内に明るい雰囲気を醸成することができた。
- 「髪を切ったんだね！」「うん！」などの、挨拶以外の生徒間のコミュニケーションの場面を増やすことができた。
- 今後も、「どさん子☆子ども根室地区会議」等への参加を通して、他校の効果的な取組を参考に、本校の人間関係づくりの取組の充実を図りたい。

標津町立 標津中学校

地区会議時の思い

- 人と人とのつながりがいじめを防ぎ、居場所をつくることから、生徒と生徒をつなぐ橋になりたい。



取組の概要

- 毎日生徒会が行っているあいさつ運動に「あいさつ運動サポーター」として生徒会以外の生徒も巻き込む取組の実施
- 生徒会による「行動宣言」の掲示やスローガンの作成
- 生徒会による水曜日の一斉下校時の「See you again」運動の実施〔下校する生徒に「さようなら、また明日」の声かけ〕
- 生徒参加型の全校集会の実施

結果や成果 今後の抱負 感想など

- あいさつ運動を強化し、あいさつをする生徒が増えた。
- 水曜日の下校時、笑顔で下校する生徒が増えた。
- 「行動宣言」を生徒がよく利用する廊下に掲示したことでの意識を高められているが、工夫改善しながら継続していく必要がある。
- 生徒が自分たちで「いじめを起こさせない」「一人にさせない」などの共感的な雰囲気づくりをさらに進めていく。

北海道中標津農業高等学校

地区会議時の思い

- いじめ防止のために小さなことでもできることが見付けられる会議にしたい。
- みんなでいじめをなくすために共通認識を図れるようにしたい。



取組の概要

- 生徒同士が感謝の気持ちを伝えることで、相手のよいところを見付けたり、より相手のことを知ろうとする行動が増えたりすると考えた。そして、2月の『予餞会』の中で、相手に感謝の気持ちを伝える場を設けた。
- 生活委員会の話し合いで、生徒自身がいじめの現状について知る機会をつくれないか検討した。生活委員会の月別アンケートなどから、生徒へ全国のいじめの現状について周知しようと考えた。

結果や成果 今後の抱負 感想など

- 今年度の予餞会にて、在校生から3年生に向けた感謝のメッセージ動画を作成して上映した。卒業生からも在校生に向けて感謝の気持ちのメッセージを送った。そして、卒業式後には卒業生から先生方へサプライズメッセージ動画を作成して、3年間の感謝の気持ちを伝えた。生徒会活動によって、感謝の気持ちを伝える場が連鎖したことが嬉しかった。
- 生徒同士のつながりをさらによいものにするために、来年度は生活委員会を中心にいじめアンケートを作成する。

各市町の子ども会議

根室市

根室の未来を考える 子ども会議

〈期日〉

平成30年7月26日（木）

〈会場〉

根室市総合文化会館 多目的ホール

〈参加児童生徒数〉

32名（小学生17名、中学生15名）



1 事業の概要

テーマを「いじめのない明るい学校づくり」とし、いじめの根絶に向けて子どもたちが主体的に考え、児童会及び生徒会が中心となって課題を解決していくとする自治力を高め、各校の取組の実践につなげることを目的に実施した。

○ 実践発表・全体交流

「いじめのない明るい学校づくり」のために、児童会及び生徒会が主体となって取り組んだ実践を発表し、全体で交流を行った。

○ グループ協議

「ネットいじめをなくすために学校でできること」をテーマに7グループに分かれて協議を行った。

2 事業の実施に当たって工夫しているポイント

○ 実践事例の発表

・小学校1校、中学校1校が自校の今年度の実践を発表した。「児童会が企画した全校遊びや、全校清掃と全校給食の取組を通して、互いのことを分かり合える機会が増えた」「全校でレクを行ったことにより、互いのよさを知る機会となり、絆を深められた」などの成果の発表があった。

○ グループ協議

・校種間の活発な交流や小・中学校が共通した取組を実践することができるよう、中学校区でグループを編成し、協議を行った。

・ステップ①「どうしてネットいじめが起こるのか」、ステップ②「ネットいじめをなくすために学校でできること」と協議を2段階にして、協議内容の焦点化を図った。

・グループ毎に次の3点についてまとめた。

【ネットいじめが起きる要因】：ルールを守れない。相手のことを考えないで行動してしまう。

【ネットいじめを防ぐために気を付けること】：相手のことを理解し、思いやる心を大切にする。

【ネットいじめをなくすために学校でできること】：全校集会等で考える時間を設定する。

・参加者からは、「自分たちの学校でも取り組んでみたい」「ネットいじめについて理解を深めることができた」などの感想が出された。

3 今後の展望

○ 子ども会議で出された意見をまとめ、各学校に周知し、小・中学校が共通したいじめ撲滅に向けた取組の一層の充実を図る。

○ 学校だけでなく、保護者や地域住民も主体的にいじめ撲滅に取り組めるよう、市のホームページに本会議の成果を掲載するなど、本会議の取組を普及啓発するための発信方法を工夫する。

各市町の子ども会議

別海町

別海町子ども会議

〈期日〉

第1回：平成29年7月31日（金）9～12時

第2回：平成30年1月12日（金）9～12時

〈会場〉

別海町中央公民館

〈参加児童生徒数〉

第1回、第2回ともに48名（小学生24名、中学生24名）



1 事業の概要

夏休み中に開催した第1回目の会議で、学校区の小中学校の児童生徒が協力して、各種データ（学校評価・授業評価アンケート等）をもとに、『学習面』『体力面』『生活面』について、子どもの視点で課題を自ら設定し、解決するための具体的な解決方法を協議した。

※「いじめ防止」は生活面の中で協議

2学期中に、課題解決に向けた取り組みを児童生徒が協力して実行し、冬休み中の第2回目の会議で、2学期におこなった取組の成果や課題、そして3学期・新年度に向けての改善点を学校区毎に協議した。本会議において出された意見をもとに、「いじめをしない・ゆるさない」等の『別海町子ども宣言』を発表し、町内全校で掲示し、取組の啓発を行っている。

2 事業の実施に当たって工夫しているポイント

- ・(P) 夏休み中に課題と解決方法の設定⇒(D) 2学期に実際に取り組む⇒(C) 冬休み中に取組の検証と3学期・(A) 新年度に向けてのというやりっぱなしにならないPDCAサイクルの確立
- ・授業でも活用している3人トリオによる話し合い活動による意見交流の活発化
- ・小中学生による、中学生がリーダーシップを發揮しながら、課題解決に向かうためのKJ法の実施
- ・最終となる第2回会議における子どもたち自身による『別海町子ども宣言』と各校の学級における掲示啓発または全校集会等における紹介啓発

P

第1回会議…自分の学校区における「学習面」「生活面」「体力面」の課題発見と解決方法の設定（小中学校それぞれでのトリオによる話し合い⇒小中学生によるKJ法による協議）

D

2学期…小中学校の児童生徒が連携をし、課題解決のための取組

C

第2回会議…2学期の取組の検証（課題と成果）

A

第2回会議…3学期・新年度に向けての改善（小中学校それぞれでのトリオによる話し合い⇒小中学生によるKJ法による協議）と『別海町子ども宣言』による全児童生徒への周知啓発

3 今後の展望

・会議の中で、宣言された『別海町子ども宣言』を全校、全学級で掲示し、「いじめをしない・ゆるさない」等の5つの項目について、継続して取組がすすめられているかを、学校評価等の中で、検証していく。

各市町の子ども会議

標津町

すごしやすい学校づくり子ども会議

〈期日〉

平成30年12月15日（土）

〈会場〉

標津町生涯学習センター

〈参加児童生徒数〉

25名（小学生11名、中学生10名、高校生4名）



1 事業の概要

- 各学校の実践発表
「すごしやすい学校づくり」のために、児童会及び生徒会が主体となって取り組んだ実践を発表し、全体で交流を行った。
- グループ協議
4つのキーワード「あいさつ」「異学年交流」「地域交流」「いじめ防止」に分かれて協議を行うとともに、行動宣言を作成した。
- 全体交流
全体で、各グループが作成した行動宣言を共有し、今後の取組に向けて確認した。

2 事業の実施に当たって工夫しているポイント

- 各学校の実践発表
 - ・小学校2校、中学校2校、高等学校1校が自校の今年度の実践を発表した。「児童会が企画した全校遊びや、全校清掃と全校給食の取組を通して、互いのことを分かり合える機会が増えた」「挨拶運動をとおして、互いを思いやる機会が増えた」などの成果の発表があった。
- グループ協議
 - ・異校種間の活発な交流や小・中学校が共通した取組を実践することができるよう、高校生が進行を行うとともに、学校運営協議会委員等が協議の中で助言を行った。
 - ・ステップ①「よりよい学校生活を行うために各学校で行っていることを共有」、ステップ②「標津町の小・中・高等学校で取り組める行動宣言の作成」と協議を2段階にして、協議内容の焦点化を図った。
 - ・グループで行動宣言（スローガン）を作成した。
【あいさつ】：あいさつから始まる笑顔と交流
【異学年交流】：異性、学年の壁をなくし仲を深める
【地域交流】：イベントは人の心をつながせる 積極的にイベントに参加する
【いじめ防止】：気持ち見えるか（見える化）
 - ・参加者からは、「自分たちの学校でも取り組んでみたい」「ネットいじめについて理解を深めることができた」などの感想が出された。

3 今後の展望

- 全体で確認した行動宣言（スローガン）を各学校に掲示するとともに、本会議の内容について全校児童生徒に報告し共通理解を図る。
- 各学校において、行動宣言（スローガン）に基づいたすごしやすい学校づくりに向けた実践を定期的に検証し継続して実施する。

日常の学校の取組

根室市立花咲港小学校

〈取組概要〉

- 学級の子どもの実態に応じて、学級担任より「学校いじめ防止基本方針」について説明することで、いじめはどんなことがあっても許されないという意識の向上を図ったり、児童会書記局が企画する「全校遊び」、小規模校の特性を生かした全校給食、縦割り班清掃を通して、児童同士が思いやりの気持ち、互いの仲を深める活動に取り組んだりしている。

〈具体的な取組内容〉

1 「学校いじめ防止基本方針」を知る機会の設定

- (1) 学級内でトラブルが起こった時やいじめのアンケートの実施時に合わせ、学級担任が学級の子どもの実態を踏まえて、「学校いじめ防止基本方針」の内容を説明する機会を複数回設定し、いじめの未然防止に向けた児童の意識の高揚を図っている。

2 全校遊び（月2回休みに実施 11月は強化月間）

- (1) 遊びを通して、全校児童の仲を深めるために、児童会書記局5名が次の4点を意識して、全校遊びを企画・実行している。

ア 低学年が楽しく参加できるよう分かやすい遊びとする。

イ 月ごとの予定を児童会室に掲示し、遊びの内容を事前に知らせ、見通しをもって参加できるように工夫を図る。

ウ 低学年にも分かるよう簡単なルールとする。

エ 初めて行う遊びは、書記局の児童がお手本を示す。



『全校遊び』



『全校給食』

3 全校給食（月・水・金）

- (1) 縦割り班ごとの席をつくり、異学年同士での会話を楽しみながら、給食をとっている。また、準備や片付けについても、班ごとに担当し、異学年で協力しながら行っている。



4 縦割り班清掃（火・木）

- (1) 毎週火・木曜日を特別区域の清掃日（月・水・金は学級清掃）とし、縦割り班で活動している。

- (2) 高学年が、低学年に清掃の仕方を伝え、異学年同士で協力して行っている。

- (3) 週ごとに清掃区域を変え、全員が全区域の清掃に携わり、学校を大切にしようという意識の高揚も図っている。

〈成 果〉

- 「学校いじめ防止基本方針」を知る機会を設定したことによって、児童のいじめ未然防止に対する意識の高揚が図られてきている。
- 異学年で助け合いながら活動を行うことで、高学年が下学年を思いやったり、新たな友達のよさを発見したりするなど、仲間意識が生まれている。

〈課 題〉

- 日常生活においても、常に児童同士の相互理解が図られるよう活動を工夫する必要がある。

メッセージコンクール 受賞作品

「いじめ・ネットトラブル根絶！メッセージコンクール」

このコンクールは、青少年から、いじめ・ネットトラブルの根絶にかかわるメッセージ（いじめ（「ネットいじめ」を含む）の根絶、好ましい人間関係づくり、インターネットへの誹謗中傷等の書き込みの禁止、インターネット上の有害情報やSNS上の個人情報発信に伴う被害の防止、フィルタリングの設定、家庭でのルールづくり等）を募集し、いじめの根絶等に向けた啓発活動等に活用することにより、いじめやインターネット上の有害情報による被害などから青少年を守るために社会全体の意識の醸成を図ることを目的として開催しています。

「いじめの根絶部門」・「ネットトラブルの根絶部門」の2部門を設けており、それぞれ「標語」と「ポスター」を募集した結果、平成30年度は、根室管内の小・中学校、高等学校の児童生徒のみなさんから、1,045作品の応募があり、審査の結果、次のとおり入賞作品を決定しました。

「いじめ・ネットトラブル根絶！メッセージコンクール」根室管内審査結果 ポスター《いじめの根絶部門》



最優秀賞
標津町立川北小学校6年 樋木 瑞

最優秀賞

中標津町立中標津中学校3年 山本 桃歌

※本作品は、全道コンクールにおいても最優秀賞を受賞しました。